

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171200207		
法人名	株式会社 恵み野介護サービス		
事業所名	株式会社 恵み野介護サービス グループホーム だんらん こがね		
所在地	恵庭市黄金南4丁目13番地1		
自己評価作成日	平成28年9月15日	評価結果市町村受理日	平成28年11月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0171200207-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新興住宅の中にあるグループホームで、自然にも恵まれた環境です。ホームでは、行事活動に力を入れご家族様にも参加していただき利用者様とのふれあいにも力を入れています。明るく元気なスタッフが1人1人の暮らしを支えながら安心、安全な生活ができるよう支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム だんらん こがね」は、平成16年に開設した1ユニットのホームで、静かな住宅地に溶け込んで建っている。平屋建ての屋内は窓が多く開放的で、秋をイメージした作品や装飾品が飾ってあり季節感のある心地よい空間になっている。近くの小学校に通学する子供達とは顔馴染みになっている。大学や専門学校の実習生を受け入れ、市の取り組みである「ボランティアポイント制度」を活用する等、周囲の環境や制度を活かしながら住民と日常的に交流している。町内会とは事業所の夏祭りに役員の参加を得る他、消防署、町内会役員、行政の協力で避難訓練を実施している。また「緊急時通報システム」を設置して町内会との協力体制も整備している。法人の方針の下に管理者は職員の育成を熱心に取り組み、市主催や「グループホームネットワークの会」研修会の受講を勧め、スタッフ会議で学びを深めながらサービスに繋げている。介護計画では3ヵ月毎に見直し、利用者担当職員が支援内容を詳細に評価し、それらを基に利用者、家族の意向を具体的に介護計画載せて実現している。受診は、ほぼ事業所でも対応し、協力病院や各専門病院の主治医と関係を築きながら健康を管理している。職員は常に利用者とお話をしながら温かな対応で一人ひとりの思いを聴き取り、利用者が自宅のようにゆったり過ごせるように支えている。日々利用者は散歩や個別の買い物を楽しみ、外出行事では牧場見学や花見等に出かけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念およびスタッフ理念両方を共有部に掲示し、カードを作りスタッフ全員携帯して共有を図っている。	法人共通の理念と事業所独自のスタッフ理念に地域に根差した環境づくりの内容が入っており、地域との関わりを意識して行っている。理念を会議で確認したり、気になった時は理念を記載した携帯用のカードを見て実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に一度お祭りを開催し、地域の人にも来て頂いたり、行事の時、地域ボランティアに来て頂き交流に努めている。	事業所のお祭りには町内会役員や近所の高齢者、子供達も参加している。散歩中に近所の方と野菜作りで会話を交わしたり、上棟式での「振る舞い餅」に住民と参加している。大学、専門学校の実習生や職業体験学習で中学生が来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に加入し、入居者と一緒に向かいのふれあいセンターに行ったり、いつでも地域の方が相談に来られるように行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、運営推進会議を開催し、日々の生活の様子や毎月の行事等を報告し、質向上のための話し合いを行い意見要望には素早く対応を行っている。	年間のテーマを設定し、防災対策には消防署員の参加も得ている。認知症グループホーム事業所を対象にした防災に関する研修会の情報を提供したり、感染症のミニ勉強会を行い、有意義な会議になっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き日頃より分からない事などあればすぐに連絡を行い協力関係を築いている。	市の取り組みの「ボランティアポイント制度」を活用し、ボランティアの見学や導入で社協と連携を取っている。生活保護担当者とは常に連絡や相談をしている。市やグループホームネットワークが主催する研修会に参加して学びを深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践はスタッフ全員で取り組み、玄関は、防犯のため夜間のみ施錠を行うが日中は開けておりいつでも出入りできるようにしていますが、やむを得ずセンサーや鈴を設置する場合は、家族の承諾書を頂いている。	身体拘束や虐待に関する研修会に参加した職員はスタッフ会議で報告し、内容を共有している。身体拘束禁止行為の11項目を携帯用のカードに記載して常に確認している。利用者の言動を抑制しない方法を話し合い、玄関から外に出た時は行動を見守り、自然な声かけで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束委員を設け、研修がある時には参加し、月に一度のスタッフ会議の時には、勉強会を行い防止に努めている。		

グループホーム だんらん こがね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村や恵庭市グループホームネットワークを通じて勉強会を開催してもらい参加している。又、成年後見制度については、ガイドブックを用意し閲覧できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者やご家族の不安や疑問点などを尋ね、十分な説明を行い、理解や納得を得られてから契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が気軽に話せるよう会話を設けたり、ご家族の方とは来訪時に面談を行い、意見や要望等を聞き記録に残している。	家族の来訪が少ない場合は電話で報告し、来訪時には記録を基に報告しながら希望を聞いている。ケアマネジャーも介護計画の意向を確認してケアにつなげている。意見等は個人ごとに「面談及び説明経過」に記録して内容を共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や連絡ノートを使用したり、個別に意見交換出来る様に場を設けている。	管理者は法人の全体会議で検討した内容をスタッフ会議で報告している。会議で意見交換を行う他、管理者やケアマネジャーへの連絡ノートを活用し意見なども記載している。各職員は自己目標達成度を管理者と話し合い、要望も伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績、勤務状況を把握し職場環境の整備に努めているが、介護の給与水準が全国的に低い為、向上心を持って働くまでには至らない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所の外部で開催されている研修に参加しており、会議等で研修報告を行っている。報告時に研修で得た知識をスタッフ全員で共有するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	恵庭市グループホームネットワークを通じて勉強会を行ったり、夜カフェなどに参加し、他の施設の方と交流を深め意見交換などを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃から本人の会話や表情等を常に観察し、本人が今何をしたいのか、何を思っているのかを読み取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの生活歴や習慣、ご家族の意向を聞き入れ、意向に沿うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族が、その時に必要な支援を知る為にも話し合いを行い、他のサービスも利用出来る事などの説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に過ごしその中から色々な事を学び、教えられ、入居者同士の関係を支えながら築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係を常に大切にし、必要に応じて協力していただき、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしてきたなじみの人や場所等を本人、ご家族より教えていただき、今後も関係を継続出来る様に支援している。	事業所近くの通りを通学する小学生や、定期的に来訪しているボランティアとは顔馴染みになっている。遠方の親戚と電話で会話を楽しんでいる方もいる。近くの「ふれあい交流センター」に出かけたり、周囲が馴染みの環境になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状態、状況によりスタッフが中に入り、一緒に関わり合いながら支え合える様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族より連絡、相談等があれば支援する様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を会話の中で問い掛け、また思いを表現出来ない方には、表情等により読み取る様努めている。	会話の中で希望を聴き取り、本人の気持ちや言葉を介護計画に載せている。センター方式のシートに興味や嗜好等を記載しているが、更に変化なども追記して現在の状態を把握したいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族よりの情報、入居者のアセスメントシート等により情報を得る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活の様子を日々観察し、また他のスタッフとの話し合い等により把握する様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族より意向を確認し、関わる全スタッフで話し合いの元、ケアプランの作成を行っている。	利用者担当職員はサービス支援内容に沿って評価を行い、それを基に3か月ごとに更新計画を作成している。本人・家族の意向をサービス計画書1表に記載してサービスにつなげている。支援内容で状態変化なども意識して日々の記録を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの様子を介護記録に残し、ケアの工夫等は個人連絡事項として記入し、スタッフ間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化を出来る様に他事業所等との連携を取れる様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしが出来る様に地域資源を活用するように心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問介護やかかりつけ医との連絡を密にし、適切な医療を受けられる様支援している。	協力病院の内科を主に受診し、専門的な他科受診は、かかりつけ医を継続している。通院は事業所が対応し結果を家族に報告しているが、必要に応じて家族も同行して主治医と話し合っている。皮膚科の往診を受けている方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、訪問看護を利用し利用者の現状の報告や相談を行い、適切な受診、看護を受けられる様に支援していく。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に安心して治療が受けられる様に、また早期に退院出来るように病院関係者との情報交換や相談を行い、関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について早い段階からご家族と話し合いを行い、施設にて出来る事を説明しながら主治医への相談を行って、方針の共有を行っている。	利用開始時に重度化に関する指針を文書で説明し、医療行為が必要な時は対応が難しいことも説明し同意を得ている。看取りの希望には家族の協力を条件とし、状態の変化に沿って関係者で話し合い、食事の工夫などで可能な限り対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習がある場合は、希望者を募り、個別に参加を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、避難訓練を実施し、消防署の指導の元、市職員、包括支援センター、町内会長、民生委員の方に協力していただき実施している。	日中を想定した避難訓練を消防署と町内会役員、行政の協力を得て行っている。夜間想定 of 自主訓練を実施し、職員の救急救命訓練も受講している。地震・風水災害時の対応を行政とも話し合っており、次年度に訓練を予定している。	地震などを想定した訓練の際に、事業所内の危険個所の確認や各ケアでの対応を職員間で確認することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別の人格を尊重し、ほこりやプライバシーを損ねない言葉づかいや対応を心掛け行っている。	利用者への声かけは優しく、トーンも穏やかである。新人スタッフの接遇教育を徹底している。トイレに保管している個人用品は、イニシャルを用いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人が、本人の思いや希望を表し自己決定出来る様に声掛け等を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のペースを大切にしつつ、体調や希望を考慮しながら、散歩や買い物、花壇、菜園いじりなど行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様に着る服の選択などの声掛けを行い、支援している。		

グループホーム だんらん こがね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の負担にならないような盛り付け、食器拭き等を行っている。また週二回、スタッフメニューを考え、入居者の好みそうな食事を提供している。	食事は彩りよく美味しい味付けで、食べやすさを工夫している。スタッフの献立は、利用者が好む洋風を積極的に取り入れたり、季節感を反映させている。行事食や外食も充実している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の体調を把握し、減塩、カロリー減、摂取量を考え、対応している。水分は、時間を決め提供する。取りにくい方には好みのものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人に応じた口腔ケアを支援し、声かけ、見守り等を行っている。義歯使用者は夜間洗浄を必ず行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、個別の排泄パターンを把握し、時間毎に声かけを行い、出来るだけ、トイレで排泄が出来るように支援を行っている。	全員の排泄チェックを行っている。オムツを使用せず、リハビリパンツやパットで対応している。誘導が必要な利用者への介助は、タイミングを見計らいさりげなく行っている。排泄の用品類の検討も適宜実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分補充を行い、個別に合わせた食事の工夫で、ヨーグルト等を活用し、便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタルチェックを行い、体調の確認を行いながら、本人の希望、その時の気分も配慮し、週二回は、入浴を行うように支援している。	利用者本人が入りやすいように曜日を決めているケースもある。基本、週に2回、午前、午後に関わらず希望に応じている。シャワーチェアや回転ボードなどを使用し、利用者の負担感に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、入居者の体調を考え、居室で休み時間も大切にしている。夜間は、個別に適切な寝具、寝巻で対応しゆっくり休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容が確認できるようにファイル保管し、服薬時には見守り介助を行っている。症状に変化があった場合は、都度医師への相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の状態等を考慮しながら散歩や同系列のグループホームに行ったりしている。また、月一回行事を取り入れ楽しみを支援している。		

グループホーム だんらん こがね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天気等を見ながら買い物や散歩、外出を希望に沿って行い、気分転換が出来る様に支援している。	散歩は、事業所周辺の住宅街などをコースにして、住民に野菜作りを見せてもらったり、会話を楽しんでいる。「恵庭市グループホームネットワークの会」主催のイベントに参加したり、牧場見学や花見などに出かけている。個別の外出支援は買い物を中心に、楽しみ事となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の能力を把握し、管理や自分で支払いが出来る様に個々に合わせて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を掛けたり、手紙等を書くようにしてやり取りを行える様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓から入る光によって明るく広々とした空間を生かし、季節や行事に合わせた飾りつけ等工夫している。また換気システムを使い、常に清潔感を維持出来る様に注意している。	リビングは明るく居心地よい空間で、テーブルや椅子、ソファコーナー、談話スペースなど、広さを活かした設えである。壁面の装飾は季節感たっぷりのモチーフであり、書道の文字に秋刀魚など、塗り絵・昆虫と花の立体的作品へも反映させている。気になる臭いもなく、清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各共同空間に椅子やテーブルを置き、自由に使うて過ごせる様に空間作りを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い入れのある装飾品をご家族と相談の上で持参していただき、居心地よく生活出来る様に工夫している。	居室入り口には、利用者の写真や名前を掲示している。居室内は整理整頓され、本人の好みの飾り付けがされている。押入れ型のクローゼットがある。タンスには収納の品が分かるように、ラベルを貼るなどしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線を意識した手すりの設置等を行い、歩行不安的な方の居室にはご家族に相談の元、アラーム等を置き、安全や生活しやすさを考えて、必要に応じた環境作りをしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム だんらんこがね

作成日：平成 28年 11月 15日

市町村受理日：平成 28年 11月 22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	本人の希望や意向の把握に努めているが、今の状態の変化をつけるセンター方式のシートの更新の記入が不十分である。	職員との連携をより密に図り、定期の会議の場にて話し合いを行い、それぞれの変化をスタッフ全員が把握できるようセンター方式のシートの追記を行う。	センター方式のシートへの記入方法の勉強会を実施。細かな変化でも記録に残し情報の共有、変化に気付けシートへの記入がしやすいようにメモを活用する。	1年間
2	35	年2回の火災による避難訓練は、消防署の指導のもと確実に行うことができているが地震、水害の災害時の訓練ができていない。	地震、水害等の訓練を実施計画を行い利用者を避難出来る方法を身につける。	ホームで作成した防災マニュアルを活用し訓練の実施。訓練ができる計画を立て災害が起きた時の行動、予防策、問題点の把握を行う。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。